

産科・婦人科

産婦人科：1年時必修研修および2年目の選択研修

指導医：産婦人科部長、産婦人科医長、指導医資格のある医員

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の医員、および臨床経験7年以下の産婦人科医

指導者：周産期病棟の看護師長、産婦人科外来専従看護師

●一般目標（GIO）

女性特有の性周期や妊娠・分娩、さらには加齢に伴うホルモン環境変化による健康上の問題を、全人的に把握するために産婦人科診療に求められる基本的知識、臨床応用能力、態度を習得し各専門的医療に進むための基礎を築く。医師としての倫理性、社会性ならびに学問的姿勢に関し基本的姿勢を有し、産科婦人科に関する基本的知識・技能を有する医師を目指す。

●行動目標（SB0s）

- ・患者およびその家族との信頼関係を確立することが出来る。
- ・他職種を含めたチーム医療を理解し、その中で指導医、上級医と共に医師としての役割を果たすことが出来る。
- ・正常妊娠・分娩・産褥、主な合併症妊娠や婦人科疾患の病理、病態生理を理解出来る。
- ・問診、身体診察を含む非観血的診断スキルを身につけ、総合的診断能力を養う。
- ・妊娠も含むホルモン環境変化を理解し、女性特有の疾患特異性を理解する。
- ・婦人科疾患の初期診断、および治療に必要な知識・技術を習得する。
- ・産婦人科独自の診察法、検査手技、臨床検査の実施及び評価、手術を含む治療手技、薬物療法を理解し習得する。
- ・女性特有の疾患における救急医療で求められる、迅速な判断・対応を身につける。
- ・EBMに基づく産婦人科医療を行うための情報収集、技術講習を通じ積極的に自己啓発に努めることが出来る。
- ・地域中核病院にて診療に従事する重要性を理解、自覚し、地域チーム医療としての病院連携を図ることが出来る。

●方略

<病棟業務>

- ・周産期病棟を中心に、常時数名の患者を指導医、上級医と共に担当する。
- ・担当患者の問診および身体所見をとり、指導医、上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。
- ・担当患者の血液検査、超音波検査、CT・MRI検査などの各種検査にできるだけ付き添い、検査を見学および状況に応じて指導医のもとで実践する。

- ・ 指導医、上級医のもと、採血、静脈ルート確保、導尿などを含む正常分娩の管理・実践を行う。
- ・ 指導医、上級医とともに必要な生活指導を入院患者に行い、診療内容・説明内容をカルテに記載する。
- ・ 担当患者に関わる書類（他院への診療情報提供書、入院証明書など）の作製を経験する。

<外来業務>

- ・ 婦人科外来で、問診、診察、検査オーダー、評価、処方等の一般産婦人科外来を行い、別記してある領域的研修内容の疾患を指導医、上級医とともに経験する。
- ・ 産科外来では超音波検査等の各種検査にできるだけ付き添い、検査を見学および状況に応じて指導医のもとで実践する。

<救急業務>

- ・ 担当患者の急変に対しては、指導医、上級医とともに直ちに対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
- ・ 平日日勤帯の救急患者で産婦人科がコールされた時は、産婦人科外来もしくは救急外来診察室で指導医、上級医と共に対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。

<基本的検査手技および治療手技>

- ・ 後述する検査手技、治療手技を、当初は見学からはじめ、指導医、上級医の指導のもと施行する。

<コンサルテーション>

- ・ 他診療科・他病棟からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。
- ・ 担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<カンファレンス>

- ・ 毎週の周産期カンファレンス及び産婦人科症例カンファレンスに参加する。
- ・ 特定妊婦に関する虐待対策部会などの他職種カンファレンスにも参加する。

<勉強会>

- ・ 抄読会や院内研修会には積極的に参加する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
午前	病棟研修 外来研修	病棟研修 手術	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修
午後	病棟研修	外来研修 (産褥1ヶ月 健診) 手術	病棟研修 外来研修	手術	病棟研修 外来研修

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者（周産期病棟師長、助産師、産婦人科専門看護師）が行う。

●参考資料

<基本的検査手技および治療手技>

1. 基本的婦人科診療能力

a) 問診および病歴の記載視診

b) 基本的診察法：視診（一般的視診、膣鏡診）、触診（外診、内診、直腸診）

c) 新生児の診察

d) その他の理学的診察

e) 経膣・経腹超音波検査

2. 必要な検査をオーダーし、その結果を理解し診療することができる。検査結果をわかりやすく患者に説明することができる。

a) 一般的検査

b) 産婦人科の検査

(1) 産婦人科内分泌検査：基礎体温表、各種ホルモン検査

(2) 不妊症検査：基礎体温表、卵管疎通性検査、精液検査

(3) 妊娠診断：免疫学的妊娠反応、超音波検査

(4) 感染症の検査：膣トリコモナス、カンジダ、クラミジア感染症

(5) 細胞診・病理組織検査：子宮膣部・子宮内膜細胞診、病理組織生検

(6) 内視鏡検査：コルポスコピー、腹腔鏡、子宮鏡

(7) 超音波検査：ドップラー法、経腹・経膣超音波検査

(8) 放射線学的検査：骨盤計測、子宮卵管造影法、CT、MRI

3. 基本的治療法・手技について適応を判断し実施できる。

a) 呼吸循環を含めた全身管理

- b) 術前・術後管理(摘出標本の取り扱い・病理検査提出を含む)
 - c) 注射・採血
 - d) 輸液・輸血
 - e) 薬剤処方 薬物の作用、副作用、相互作用の理解 (特に妊娠中の薬物影響)
 - f) 外来・病棟での処置
4. 救急患者のプライマリケアができる。
- a) バイタルサインの把握、生命維持に必要な処置
 - b) 他領域専門医への適切なコンサルテーション
5. 産婦人科領域の処置、手術
- a) 正常分娩の取り扱い
 - b) 異常分娩への対応
 - c) 帝王切開の助手
 - d) 腹式単純子宮全摘術の助手
 - e) その他の基本的腔式、腹式、腹腔鏡下手術の助手
 - f) 生殖医療における検査・処置の助手または見学
6. 患者の特性を理解し、全人的にとらえ、患者、家族、医療関係者との信頼関係を構築し、コミュニケーションを円滑に行う。
- a) 家族歴、既往歴聴取、回診時における患者とのコミュニケーション
 - b) 患者、家族からの Informed Consent (IC) への同席
 - c) 他の医師やメディカルスタッフの意見の尊重

<産婦人科領域的研修内容>

1. 頻度の高い症状：腹痛、腰痛について患者の臨床症状と身体所見、簡単な臨床検査に基づいた鑑別診断と初期治療に参加する。
- 鑑別すべき疾患： 子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮内膜症、子宮内膜炎、子宮留血症、月経困難症、骨盤腹膜炎、切迫流早産など
2. 緊急を要する症状・病態
- a) 急性腹症：救急医療として女性特有の急性腹症の病態を理解し初期治療に参加する。
- 鑑別すべき疾患： 異所性妊娠、卵巣腫瘍茎捻転、卵巣出血など
- b) 流早産および正期産
3. 経験が求められる疾患・病態
- a) 産科
 - (1) 妊娠・分娩・産褥の生理の理解
 - (2) 妊娠の検査・診断
 - (3) 正常妊婦の外来管理
 - (4) 正常分娩第1期ならびに第2期の管理
 - (5) 正常頭位分娩における児娩出前後の管理
 - (6) 正常産褥の管理
 - (7) 腹式帝王切開術の経験
 - (8) 流・早産の管理

(9)産科出血に対する応急処置法の理解

b) 婦人科

(1) 骨盤内の解剖の理解

(2) 視床下部・下垂体・卵巣系の内分泌調節系の理解

(3) 婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画の立案、手術に参加

(4) 婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解、手術に参加

(5) 婦人科悪性腫瘍の集学的治療の理解・立案・参加

(6) 不妊症の治療計画の立案に参加

(7) 婦人科性感染症(STI)の検査・診断・治療計画の立案に参加

4. 婦人科癌終末期の緩和ケアを経験する